献金者名簿

2025年9月1日から2026年3月31日の間に募金下さった方々です。（法人格など省略）

カリタスジャパンの活動へのご支援を今後ともよろしくお願いいたします

カリタスジャパンの活動は皆様の日ごろの募金と「四旬節愛の献金」によって支えられています。募金専用のゆうちょ銀行払込票をご用意しておりますので事務局までご請求ください。

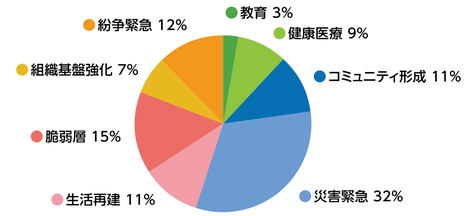
◎募金団体等の代表・担当者個人名で払込の場合は、その「募金団体等の名称」も必ずご記入ください。
◎匿名をご希望の方、払込票の所定の欄にレ印、または通信欄に明記ください。
○ご寄向について、払込票の所定欄にレ印、または通信欄に明記ください。
＊記入がない場合は「最優先の援助先」とさせていただきます。
＊「呼びかけ/受付中の募金」は、カリタスジャパンのホームページにてご案内しております。

【2025年9月1日～2026年3月31日の献金額】（単位:円）

CJ運営寄付	628,668
本年四旬節	13,472,993
国内援助	21,859,963
海外援助	29,711,884
クリスマス募金	20,342,461
マンスリーサポーター	4,252,400
能登地震	17,643,857
国内災害対応	337,734
ガザ人道支援	8,069,661
ウクライナ危機人道支援	5,376,718
スーダン支援	319,834
ミャンマー地震	4,707,169
合計	126,723,342

2025年度 分野別援助実績

年間の援助の3割をしめたのが災害緊急分野です。2025年度にはパキスタンやフィリピン、インドネシアやカリブの国々など、地球温暖化の影響で頻発しているハリケーンやサイクロンによって被害を受けた方々を支援しました。



援助実績一覧（2025年10月～2026年4月）

	援助国/地域	援助活動名	援助団体	援助額（円）
国際カリタス緊急支援要請	エリトリア	エリトリア脆弱世帯の強靭性構築と福祉向上	CAFOD	1,823,900
	モザンビーク	モザンビーク南部及び中部の洪水対応	カリタスモザンビーク	1,836,300
	エチオピア	干ばつ及び紛争の影響をうけたコミュニティへの人道支援	カリタスエチオピア	1,851,400
	南スーダン	紛争の影響を受けた国内避難民・帰還民・ホストコミュニティに対する人道支援	カリタス南スーダン	1,558,500
	レバノン	レバノンのリスクや避難の影響を受けた人々に対する人道支援	カリタスレバノン	1,386,300
	レバノン	レバノンのリスクや避難の影響を受けた人々に対する人道支援	カリタスレバノン	9,421,000
	スリランカ	サイクロン後に希望とともに立ち上がる事業	カリタススリランカ	1,868,900
	バングラデシュ	強制移住させられたミャンマー人（FDMN）及びホストコミュニティ支援	カリタスバングラデシュ	779,250
	ミャンマー	地震及び紛争の影響を受けたコミュニティ復興・回復力強化プログラム	ミャンマー	9,404,000
	カンボジア	カンボジア-タイ国境における軍事衝突に対する緊急対応	カリタスカンボジア	3,177,800
	フィリピン	マスバテ州及びセブ州における熱帯低気圧と地震による複合災害被災地に対する緊急・早期復興支援	カリタスフィリピン	1,789,000
	インドネシア	洪水及び土砂崩れ被災者への人道支援	カリタスインドネシア	1,851,400
	カリブ海地域	ハリケーン・メリッサの被害を受けたキューバ人支援	国際カリタス	1,588,900
	ハイチ	ハリケーン・メリッサによる被災者と国内避難民をを支援するための統合的人道支援	カリタスハイチ	1,588,900
	ジャマイカ	ジャマイカにおけるハリケーン・メリッサ被害からの復旧	カリタスアンティル諸島	1,875,684
ウクライナ危機人道支援	ウクライナ	ウクライナ戦争に対する継続的な支援2026/2027	カリタススベスウクライナ	4,609,500
	福岡教区	ウクライナ避難民とその家族への支援事業	グローバルライフサポートセンター	2,389,200
ガザ人道支援	パレスチナ	健康、緊急支援、生存に不可欠な物資に関する危機対応	カリタスエルサレム	15,197,880
能登地震災害緊急支援	名古屋教区	令和6年能登半島地震災害民間ボランティアセンターおらっちゃセ尾運営事業	sien sien west	300,000
熊本災害	福岡教区	令和7年8月大雨災害被災者への越冬家電等支援事業1月分	KVOAD	282,788
	福岡教区	令和7年8月大雨災害被災者への越冬家電等支援事業2月分	KVOAD	233,213
	福岡教区	令和7年8月大雨災害被災者への越冬家電等支援事業3月分	KVOAD	814,817
海外援助（一般）	タンザニア	ヴィタンドゴ プロジェクト	カリタスムワンザ	4,609,500
	モーリタニア	モーリタニア刑務所被収容者の尊厳回復プロジェクト	カリタスモーリタニア	9,421,000
	中央アフリカ	スーダン難民社会統合プロジェクト	カリタス中央アフリカ	9,272,289
	モンゴル	マザーズハグ・プロジェクト（家庭内暴力被害者のためのシェルター運営）	カリタスモンゴル	7,860,500
	キルギス	組織強化支援2026	カリタスキルギスタン	5,097,206
	キルギス	天文学を通じた教育・開発・平和推進プロジェクト	カリタスキルギスタン	3,374,602
	バングラデシュ	辺境地の思春期少女エンパワメントプロジェクト	カリタスバングラデシュ	7,985,500
国内一般	仙台教区	浪江町における子どもの居場所づくり事業	任意団体なみとも	1,253,837
	仙台教区	みちのくコミュニティ復興支援	カリタス南三陸	5,000,000
	東京教区	福島原発事故避難者・被害者を支える「とまり木」事業	きらきら星ネット	1,994,900
	東京教区	福島原発事故避難者・被害者を支える「とまり木」事業その2	きらきら星ネット	1,998,400
	東京教区	「新カサ・ベルデ」における困難女性および子供たちへの地域支援活動（新施設初期支援）	女性ネットSaya-Saya	1,500,000
	東京教区	フードパントリー子どもだれでも食堂 2/3年目	みんなの居場所はぐ	312,000
	東京教区	行き場のない難民申請者たちの日本語教育と自分を取り戻す為の居場所づくり（組織基盤再構築のための支援として）	難民自立支援ネットワーク（REN）	1,850,000
	横浜教区	宿泊棟の修繕にかかる資金協力	ダルク山梨	1,400,000
	名古屋教区	障害者100人に聞く「教会の中で合理的配慮アンケート調査」2/3年目	日本カトリック障害者協議会	965,000



編集後記

これまでの国際カリタスキャンペーン「排除ゼロ（2017-2019）」「Together We（2021-2024）」「債務を希望に（2025-）」を通じて、皆さまとともに歩んだ道のりを振り返り、全国に広がるカリタス活動団体をご紹介しました。今ここで、「私も、あなたも、私たちみんながカリタスです」という原点に立ち帰る「We are Caritas」32号となりました。私たち一人ひとりの思いが連帯の波を起こし、互いに支えあってともに生きることのできる社会をめざします。

We are Caritas No.32（2026年夏号）
通算発行番号No.338
郵便振替番号 00170-5-95979

宗教法人カトリック中央協議会　カリタスジャパン
発行人 成井大介
〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館
TEL:03-5632-4439　FAX:03-5632-4464
Email:info@caritas.jp　URL https://www.caritas.jp
https://www.facebook.com/caritasjapan

TURN DEBT INTO Hope
NO.32 2026年 夏号 通算発行番号No.338
You can read the text of this newsletter with Google Translation @ https://www.caritas.jp

we are Caritas

日ごろから、カリタスジャパンと歩みをともにしてくださることに感謝いたします。

今年、わたしたちは東日本大震災から15年、熊本地震から10年を迎えました。ニュースなどでも取り上げられましたが、きっと皆様、特別な思いで3月11日と4月14日を迎えられたことと思います。

この節目の年の3月11日に、カリタスジャパンはカトリック仙台司教区と共催でシンポジウムを行いました。住民として東日本大震災で被災し、今もその地に住み続けている人と、わたしも含め、発災後に駆け付けた人二人がパネリストとしてそれぞれ、当時活動して感じたこと、今も活動を続けていて感じること、日本各地で起こる災害対応に東日本での経験がどのように生かされているのかということなどについて話をしました。そこで繰り返し語られたことは、「支援される側と支援する側という関係から、ともに生きる側になる」ということでした。

地域の人たちの思いに耳を傾け、寄り添い、ともに生きることを大切にしたカリタスのボランティアは、地域の人々から親しみを込めて「カリタスさん」と呼ばれ、当たり前に地域でともに生活する存在となりました。

カトリック教会や関連組織は、自然災害などで被災する前からそこにあり、地域の中でそれぞれなりの仕方で愛（カリタス）の奉仕に取り組んでいます。大きな災害が起こると、各地から、その愛の奉仕を行っている「カリタスさん」が駆けつけるのです。緊急時の活動も大切ですが、普段から世界中の教会共同体が、地域とともに、愛の奉仕に取り組んでいることこそが、何より重要なことではないでしょうか。どうか、私たち一人ひとりが「カリタスさん」として日常の中でそれぞれなりに愛の奉仕に取り組み、すべての人の尊厳が大切にされる社会を築いていくことができますように。

成井大介（カリタスジャパン責任司教）

we are Caritas

私もカリタス、あなたもカリタス、
We Are Caritas

日本各地で愛の実践に取り組むカリタス活動を紹介します。
世界各地にカリタス活動があるように、日本各地にもカリタスさんが存在し、
みんながつながっていくことを推進していきます。

福岡

特定非営利活動法人 グローバルライフサポートセンター

2022年のウクライナ侵攻以降、行政・団体・企業等と連携しながら、日本へ避難してきたウクライナ避難民とその家族をさまざまな側面から支援しています。
フードバンクを活用した生活支援、相談事業では、食料品の宅配とともに見守り、繋がりを築くことを大切にしています。また避難生活が長期化するなか、就職、進学を視野に入れた課題に伴う定着支援として、目的に合わせた実用的な日本語学習の機会を提供しています。
これらの活動はウクライナ避難民とその家族にとって経済的・精神的な支えとなっています。同時に、日本で暮らすウクライナ避難民の潜在的なチカラを日本社会に還元することにもつながります。このように、避難民の方々にとっても日本社会にとっても、その双方がよりよい日々を迎えるための社会づくりの一環となっています。



▲日本語学習を通じた職業訓練の様子

石川

カリタスのとサポートセンター 輪島ベース

輪島ベースでは、応急仮設住宅でのカフェ活動や孤立している地域の個別訪問、また、じんのび食堂として地域食堂を展開し、地域の被災者の方とボランティアで一緒に食事を準備して食べています。さらに、震災支援の初期から連携している重蔵神社を中心としたお祭りなどのイベントにも協力しています。この重蔵神社を中心に輪島支援協働センターが設立され支援団体間の連携が図られています。



宮城

カリタス南三陸

カリタス南三陸では、東日本大震災の被災者支援として、復興公営住宅での寄り添い、見守り、イベントを通した孤立防止の活動を行っています。さらに、完全有機農業の天日干しの藻を使った茶作りや、わかめ養殖の手伝い、地域と連携したみちのく復興トイレ遊歩道の整備等も行っています。遊歩道の木の切り株にモアイ像が象徴的に彫られ、山頂には町指定の史跡、満海上人壇があり、そこも綺麗に整備しています。



北海道

札幌教区　みなずき会

もともと信徒がホームレスの方々にお弁当を届けていた活動を、2002年からは教区の組織「みなずき会」として行っています。現在は毎週水曜日に教区カトリックセンターで、6グループが炊き出し班と市販のお弁当の提供班に分かれて活動しています。
以前は高齢のホームレスの方が多かったが、最近は若い非正規雇用者で職を失った人などの訪問が増えているように感じます。これからも、皆さんの支えをいただきながら、生活困窮者の応援を続けていきます。



福島

カリタス南相馬

カリタス南相馬でも、東日本大震災の被災者支援として、復興公営住宅での寄り添い、見守り、イベントなど孤立防止の活動を行っています。また最近では、地域の社会福祉協議会や行政、地元団体とも連携して、災害協定を結び平時から連携調整会議を行い、防災訓練やボランティアセンター立ち上げから運営までの訓練も行います。カリタス食堂として子ども食堂も展開し、栄養バランスのとれた食事と子ども達の居場所も提供します。



兵庫県

一般社団法人 リカバリーライフ

「依存症は回復が可能です」を掲げ、依存症の方とご家族が心おだやかに過ごすため、様々な立場の方々に依存症を知っていただき、まごころを持って互いに助け合うために、地域の皆さまと協力して活動しています。
「ひだまりカウンセリングサロン」では、当事者ご本人のことは勿論のこと、ご家族や関係者のことに関しても、依存症状のお困りごとをサポートしています。また、ゴスペルプラザでは、地域の方々との交わりの中で、体験型オリジナルプログラム「ゴスペルクリエーション」を通じた依存症回復のための代替療法などを提供しています。その他、精神疾患・ひきこもり・依存症からの回復を支援するグループホーム等の活動にも取り組んでいます。

活動紹介 YouTube はここから

朝食を食べる習慣がない利用者さんたちの朝に寄り添い、愛が溢れる盛り付け。
大切な一人ひとりにとって素敵な一日の始まりとなりますように



アートワークショップ



グループホームの朝食

東京

みんなの居場所はぐ

活動を通じて、貧困問題だけでなく、さまざまな問題（精神疾患、発達障害、不登校など）を発掘することから、ともに飲食するひと時を過ごすことの大切さに焦点をあて、多様な問題を抱える一人ひとりに寄り添い、地域の中で必要な居場所となるよう、フードバントリーと子ども誰でもカフェ活動を展開しています。

様々な困難を抱えた方々が来られ、時間をかけて、少しずつ自分の置かれた状況を話してくれるようになります。敢えて聞かない、話されたことだけを聴く、「話したくないことは話さなくてもいいよ」という姿勢です。

時には、無力を感じることもありますが、それでも繋がっていこうと、その思いを分かち合う仲間がここに集っています。追求をしない、責めない、ある意味ほどよくいい加減、でもそばを離れない、諦めない人たちが集まり、「お互いさまの心とともに生きる」活動の実践です。

活動者の声より





国際カリタスキャンペーン

排除ゼロキャンペーン
(Share the Journey)

「キリストが私たちを、腕を広げて迎え入れるように、私たちも共通の旅を分かちあうすべての人を、腕を広げて受けいれて行きましょう」 教皇フランシスコ

国際カリタスは2019年から2021年まで、「移住者・難民」をテーマとするキャンペーンを実施しました。日本においては、カリタスジャパンと日本カトリック難民移住移動者委員会（J-CaRM）(※)が共同で「排除ZEROキャンペーン　～国籍をこえて人びとが出会うために～」として展開し、出会い、学び、行動をおこしていくよう呼びかけ、様々な形で「出会い」のきっかけづくりをおこないました。



※日本カトリック難民移住移動者委員会（J-CaRM）は、2026年4月、カトリック中央協議会の組織改編に伴って「日本カトリックいのち・平和・人権委員会」となりました。

Together We【ともに私たちは】キャンペーン
(Together We)

「ともに、より良い明日のために、今日行動しよう」

2021年から2024年国際カリタスでは、気候変動や貧困など現代社会で最も被害を受ける人びとを支え、傷ついた地球と人をケアする共同体をともにはぐくむよう呼びかけました。日本では3年間のキャンペーンの歩みを「気づきの年」「行動の年」「祝福の年・振り返り」と3段階にわけ、カリタス活動の写真展や分かち合いを通して一人ひとりがケアの文化を理解し気づくところから、一歩踏み出して深めていくよう呼びかけました。また、Together We キャンペーンの取組みは学校とも連携して行われ、各学校での取り組みをカリタスジャパンのウェブサイトを通して紹介しました。



Turn Debt into Hope ―債務を希望に変えよう

2025年教皇フランシスコによる聖年の呼びかけに応え、持続不可能な債務に苦しむ国や地域社会に新たな希望をもたらすべく、不公平な債務の免除と金融制度の改革を提唱しました。



**誰しもが尊重される世界をめざして私たちカリタスは、国籍、民族、性別、年齢、障がいの有無にかかわらず
ありのままを認め合い、排除されることなく、互いに支えあって自分らしく生きることのできる社会をめざします。**